

序

東北大学医学部産科学婦人科学教室教授

主任研究者 鈴木 雅 洲

この度、厚生省児童家庭局母子衛生課より「妊婦管理の改善による胎児障害防止に関する研究」と題する研究の依頼を受け、2年間の研究を行なった。この度、第2年目の1年間の研究成果を1冊にまとめて刊行する。3年間予定の研究のうちの2年目の研究成果であるので、内容には未完成の部分も散見される。残りの1年間でさらに前進し、まとまりのある研究成果をあげたいと念願している。

わが国においては毎年多数の胎児死亡・新生児死亡・乳幼児死亡がみられるが、これらの死亡率が年々減少しつつあることも事実である。これらの死亡率を減少させることも必要であるが、それにも増して重要なことは、先天的な欠陥をもって生まれてくる子供たちの数はこれをはるかに上まわっているのみならず、その具体的防止対策が乏しいことである。これらの先天的心身障害の発生を未然に防ぐ具体的な方法を確立することが本研究の目的である。妊婦管理は母体の健康を守ることのみならず、胎児の健康をも守ることが強調されなければならない。本研究の成果は、母子衛生行政の上で生かされることによって、はじめて国民の福祉につながるものである。

この研究は5つの分科会よりなっており、それぞれの分科会は分科会長と班員と協力者からなっている。過去2年間にわたる各研究者のそれぞれの立場からの御努力ならびに御協力に感謝する。なお、残された1年間については一層の成果をあげるべく御尽力下されるよう切望する。さらに、本研究班の評価委員の先生、ならびに本研究班の事務を担当された方々、ならびに各分科会の事務を担当された方々の献身的御努力に対して深謝する。さらに、本研究を企画された厚生省児童家庭局母子衛生課の担当の技官・事務官各位に対し感謝する。本研究によって得られた成果を、わが国全体の母子衛生行政に応用し、わが国の全国民の健康増進に役立つことを切望するものである。